

薬の副作用チェック

当てはまる症状があれば、絶対に自己判断で中止せず、必ず医師に相談しましょう。

- 気持ちの落ち込みがある
- 頭が混乱して興奮したり、ボートとする
- 食欲がなくなった
- ふらついたり、転んだりする
- 排尿障害がある
- 便秘がある

いつ飲むの?

薬の飲み方 おさらいガイド

- 食 前…食事の約30分前の空腹時
- 食 後…食後の約30分位まで
- 食 間…食事と食事との間(食後2時間くらい)
- 食直前…食事の直前
- 寝る前…寝る直前または30分～60分前
- 頓 服…症状が出たとき
(発熱時や頭痛時など)。
続けて服用せず、最低4時間くらい
間隔をあける。

正しく
服用して
いますか?

医師からもらった薬
を自己判断で中止し
たことのある人は、
なんと6割以上! 病
気をきちんと治すた
めに、薬は正しく服
用しましょう。

高齢になると、薬を分解した
り体外に排出する機能が衰
え、薬が長く体内に留まって、
薬が効きすぎることがあり
ます。薬の効き方は個人差が
大きいので、薬の服用中は医
師と一緒に注意深く経過観察
しなければなりません。

病気の治療や健康維持のた
め薬を飲む機会が増えると、
薬の種類が増えて副作用が
起こりやすくなります。高齢
者では、処方される薬が6つ
以上になると、副作用を起こ
す人が増えることが分かつて
います。

高齢者の半数近くが、医師
の指示通りに薬を服用して
いません。自己判断で勝手に
量や種類を変えると、薬がう
まく効きません。また、急に
服薬をやめたり、量を増やし
て飲むと、深刻な健康被害が
出ることもあります。

薬が増えると
副作用が出やすくなる

高齢者は薬の副作用が
起こりやすい

自己判断は危険!
必ず医師の診断を

おくすり手帳は1冊に

医療のプロに病状や悩みを知ってもらうことが、
薬のお悩み解決の近道です。

医師や薬剤師とよく話し合う

「薬が多くて心配」「薬が使いにくい
飲みにくい」「副作用がある気がす
る」など、薬で気になることがあれば
医師や薬剤師に相談しましょう。解決
法を一緒に考えてくれます。

医師の指示どおり服用する

医師は、薬をきちんと服用している前
提で、次の治療方針を決めます。必ず
医師が支持した用法を守って服用しま
しょう。飲み忘れがあれば、いつ、どの薬
を飲み忘れたかを伝え、医師の判断に
従います。

医師と経過を観察する

薬はすぐに効くものばかりとは限りま
せん。また、長く使い続けていても、病
状や体調が変われば効き方が変わる場
合もあります。定期的に受診し、検査
や診察を受けた上で医師に判断しても
らいましょう。

